第６講　ぬ・ねの識別

PART1　ぬ・ねの識別

【識別対象】

1　「　　」の助動詞「ず」

2　「　　」「　　」の助動詞「ぬ」

3　ナ変動詞「　　」「　　」・「　　」の活用語尾

4　ナ行下二段動詞「寝(ぬ)」の一部

3　｛　　　　｝＋｛ぬ　ね｝

4　「　　　　」と訳せる

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	ず							特殊型
		ざら	ざり	○	ざる	ざれ	ざれ	ざ＋ラ変型
形	ぬ							型

〈「打消」と「完了」の見分け方〉＝「　　」→「　　」

①「　　」（＝接続）確認

1　**未然**形＋ ぬ　ね ＝「　　」

2　**連用**形＋ ぬ　ね ＝「　　」

②「　　」（＝活用形）確認

●『ぬ』

1 連体形 → ぬ＋連体形接続の語
連体形＝「　　」

「打消」→ ぬ＋体言

2 終止形 → ぬ＋「　　」。
終止形接続の語
終止形＝「　　」

※ただし、文末の「ぬ」の時、**係助詞**と**疑問副詞**に注意！

文中に **係助詞「ぞ・なむ・や・か」** **疑問副詞（「いか系」「な系」）** がある →文末の「ぬ」は「　　」形 →「　　」

●『ね』

1　ね＋已然形接続の語

已然形＝「　　　　」

2　ね＋｛命令形接続の語　「　　　　」。

命令形＝「　　　　」

※ただし、文末の「ね」の時、**係助詞「こそ」**に注意！

ねば
ねど（も）
こそ〜**ね**
｝**打消**「ず」の已然形

問六　次の傍線部ア・イの「ね」について、例にならって文法的に説明せよ。（例）尊敬の助動詞「る」の連体形

「とくとく帰りね(ア)」　　ア＝

「君がすみかをそこと知らねば(イ)…」　　イ＝

問七　次のア～オの二重傍線部「ぬ」はいずれも助動詞であるが、一つだけ種類の異なるものを選べ。

ア　秋になりぬ。
イ　打松おどろおどろしからぬほどに置きて、…
ウ　うちとけぬさまにものをつつましと思したる気色、…
エ　恋の煙こそ世には絶えせぬほのほなりけれ
オ　酔泣きのついでに、忍ばぬこともこそ

問八　傍線部ア～オのうち、文法上同じ意味を持つ助動詞の組み合わせとして、最も適当なものを次の中から選べ。

「鶯うちなんどして、やるな（ア）」
午の刻の下がりまで見えね（イ）ば、…
「取りて参らむ」とて立ちぬ（ウ）。
「心も得ぬ（エ）ことかな」
この男の気色に（オ）おそれて、…

①　ア―ウ　②　ア―オ　③　イ―ウ　④　イ―エ　⑤　ウ―エ

〈Memo〉

第６講　PART１　確認問題

①「こまごまと吹き入れたるこそ、荒（あら）かりつる風のしわざとはおぼえね。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ヤ行下二段活用動詞の未然形＋打消の助動詞の已然形
イ　ヤ行下二段活用動詞の未然形＋完了の助動詞の命令形
ウ　ヤ行下二段活用動詞の連用形＋打消の助動詞の已然形
エ　ヤ行下二段活用動詞の連用形＋完了の助動詞の命令形

②「雨の降りぬべきになむ見わづらひ侍る。」の傍線部と文法的に同じであるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　死ぬべくおぼえければ、…
イ　異（け）しうはあらぬ女を思ひけり。
ウ　つひにほろびぬべしとて、…
エ　京には見えぬ鳥なれば、皆人見知らず。

③ 傍線部の「ぬ」について、一つだけ他と文法的に用法の異なるものを、次の中から選べ。

かなはでやみぬ（ア）と口惜しきに
分け行く道も見えぬ（イ）に、
鎌倉より二日にまかり着きぬ（ウ）。
忍びて、また年も返りぬ（エ）。

④ i・iiの傍線部「ね」「ぬ」の文法的意味の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選べ。

i「今年はいまだ郭公こそ聞かね。」
ii「さらばまこととも汚れぬべしとて、…」

ア　i・打消　ii・強意　　イ　i・意志　ii・推量　　ウ　i・完了　ii・意志
エ　i・打消　ii・完了　　オ　i・強意　ii・過去推量

⑤　傍線部について、文法的に同じ用法の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

やがて末まではあら[a]ねども、…
率(ゐ)て出(い)でて去(い)[b]ぬ。
金(こがね)ある竹を見つくる事重なり[c]ぬ。
みな人も[d]ねたる夜中ばかりに、…
その思ひまさりて深きもの、必ず先立ちて死[e]ぬ。

ア　aとb　　イ　aとe　　ウ　bとc　　エ　bとe　　オ　cとd

〈Memo〉

第６講　PART1　解答

問六　ア　完了の助動詞「ぬ」の命令形　／　イ　打消の助動詞「ず」の已然形

問七　ア

問八　④

第６講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 上に係助詞「こそ」があるので、「こそ〜ね」の形。このときの「ね」は打消の助動詞「ず」の已然形。「ず」は未然形接続なので、上の「おぼえ」はヤ行下二段活用動詞「おぼゆ」の未然形。よって、アが正解。

② 傍線部の「ぬ」は、上にラ行四段活用動詞の連用形があり、下に終止形接続の助動詞「べし」があるので、完了の助動詞「ぬ」の終止形。選択肢の中で「ぬべし」の形をとるものはアかウだが、アはナ行変格活用動詞「死ぬ」の活用語尾。よって、ウが正解。

③ アは下に「と」があり上に係助詞はなく、マ行四段活用動詞の連用形に接続していることから完了の助動詞「ぬ」の終止形。イは上の「見え」が下二段活用であるため未然形か連用形か判断がつかない。ただし下に「に」があり、文末ではないので打消の助動詞「ず」の連体形とわかる。ウ・エはともに下が「。」で上に係助詞はなく、四段活用動詞の連用形に接続していることから完了の助動詞「ぬ」の終止形。よって、イが正解。

④ ⅰ 上がカ行四段活用動詞の未然形なので打消の助動詞「ず」。活用形は下に「。」があるが、上に係助詞「こそ」があるので已然形。

ⅱ 下に終止形接続の「べし」があるので活用形は終止形。終止形が「ぬ」となるのは完了の助動詞だが、下の「べし」は推量系なので、ここでは強意の意味ととるほうがよい。
よって、正解はア。

⑤　ａは上にラ行変格活用動詞の未然形があり、「ねども」の形なので打消の助動詞「ず」の已然形。ｂは「去ぬ」なのでナ行変格活用動詞の終止形の活用語尾。ｃは下が「。」で上にラ行四段活用動詞の連用形があるので、完了の助動詞「ぬ」の終止形。ｄは「寝る」と訳せて下に連用形接続の助動詞「たり」があるので、ナ行下二段活用動詞「寝」の連用形。ｅは「死ぬ」なので、ナ行変格活用動詞の終止形の活用語尾。よって、エが正解。

〔解答〕

①　ア　②　ウ　③　イ　④　ア　⑤　エ